

現役学生と 教員が語る これからの教育

学校の「働き方改革」が進む中、教育現場の状況が注目されるようになりました。一部の自治体では教員採用試験の倍率が2倍を切るなど、深刻な担い手不足も報じられています。今回は、これからの学校教育について「大変だ」というだけでなく、どうしていけば良いかをテーマに、学生や現役教員が自由に語り合いました。

出席者



Tさん
今年4月から新任教員として勤務。



Hさん
大学院生。「教員を助ける」学生団体を設立、運営している。



Oさん
大学院生。学部生時代から本誌特派員として活躍。



S先生
小学校教員



N先生
高校教員。担当は社会科。

「みなさんが教職を志したきっかけはなんですか？」

Tさん 小学校から大学まで一日も休んだことがないほど学校が好きで、そのまま教員をめざしました。ただ、外の世界をよく知らないまま子どもたちを教える立場になることに、これでいいのかと迷いもあります。

Hさん 子どもの頃から好奇心がとても強く、知りたいことがたくさんあって、それを楽しめる仕事に就きたいという思いがありました。同時に知ったことを伝え

られる仕事、と考え教員を選びました。小学校を選んだのは、すべての教科を担当できるからです。

Oさん 両親が教員ということもあり、大学生になるまでは自然と教員をめざしていました。理科が好きで、新たに知識を得ることもそれを伝えることも楽しくて、教科を通して、子どもたちの人生に関わることができる教職という仕事は魅力的でした。でも、様々な情報を知るうちに、教員になるなら、一度社会に出てからだとは思っています。教員をめざして

いた同級生も、民間企業への就職に移行する人がたくさんいます。

S先生 僕は学生の時、一度教員をめざしたのですが、大学で演劇に出会って20代の間はずっと演劇をしていました。30代になって、改めて教員をやりたいと思っただけです。そのために大学院にも行きました。院生の間は、世界中を旅してまわって、一年の3分の1くらいは海外にいたと思います。教育には人を変える力があり、教育が変われば世界は変わると思っています。今、仲間

が夢だった教員にやっとなれたのに、採用後1年で体や精神が疲弊していく姿を見えています。何とかしたい、助けになればと学生団体を立ち上げ、教育について議論の場になるようなイベントの開催などをしています。私自身は、今は教員になるうとは思っていません。やりたいことも知りたいこともたくさんある中で、学校現場が今のままであれば、休みもなく働くことは自分には考えられなくて……。

N先生 休みはちゃんと取れますよ(笑)。僕は教員になってか

らマチュピチュなど海外旅行にも行っていますから。

学校の常識を変えていくためには

Tさん 部活動顧問の強制など、学校の常識が法律や市民感覚に照らして明らかにおかしいと思えば、迎合しなければいいのです。また、そうすることが現場をよくしていくと信じて、発言や議論を続けていけば、社会の変化に合わせて状況が変わっていく瞬間もあると思います。その覚悟さえあれば、教員はとてやりがいのある仕事だと思えます。最近、報道も増えてきて、進路指導で生徒から「教員になりたいけど、教職はブラックなんですか」という質問を受けることもあります。そういう時は、「これから変えていけるはずだ」と伝えています。

Hさん 同級生で教職をめざす人は「ブラック」なところに行くとは思っていない人が多いと思います。最近ようやく、「ブラックらしいよ」「大丈夫かな」という声も聞くようになりましたが、基本的には絵本や学園ドラマにあるような余裕のある学校現場のイメージばかりです。でも、私自身は色々不安に思う部分もあり、現役の

先生方がどういう工夫をされているかお聞きしたいです。

Oさん 部活動の負担が軽くなれば中高の教員は比較的早く退職できると思います。私は事前に職場で交渉をして、運動部は一度も受け持ったことがありません。今は文化部の副顧問をしています。毎日活動に参加する必要はありません。それでも、授業準備やテストの作成、採点は持ち帰り仕事です。ただ、僕は授業のスペシャリストになりたくて教員になったので、理想とする授業を突き詰めるのが楽しいのです。初任から3年間、授業づくりのために、自分の授業を全て録画していたぐらいです。

S先生 自分がやりたいことにしっかり時間を使うのは大事です。でも実際には、本来教員として一番やりたい授業準備をしたり、教職員同士で子どもたちのことを相談したりするのが、必要な業務や会議を終えた後になってしまっのが実情です。そうすると、退勤が夜遅くなりします。教員として突き詰めたいことを勤務時間内に行きたくない、会議や書類作成などの業務を削減することは課題です。雑談的に「今日うちのクラスでこんなことがあったんだ」など

と語り合ったりする時間ももっとあったらいいなと思います。

「教員が担う業務量が多すぎるということでしょうか？」

Hさん 今の学校現場は教員だけでなく、子どもたちもとても忙しいです。私の勤務校では、子どもたちは登校後すぐに朝ドリルにとりくみます。いわゆる「全国学力テスト」対策です。子どももおとも忙殺されて、のびのびできる時間の確保が難しいと感じます。学校行事をはじめとして、学校で実施されていること一つひとつに対して、何のために、どこまで求めるかを考える必要があると思います。

Oさん 小学校の卒業式の練習はすごく多かった記憶があります。小学校でたくさん練習するから、中高ではあまり練習しなくても済んでいるのかなと思ったりもしますが、そんなに練習する必要がありますのかは疑問です。

S先生 到達目標「ゴール」の常識が変われば、プロセスの常識も変わる可能性があると思います。実際、オリンピックで選手が隊列を組まずに手を振りながら入場するのを見て、運動会の入場行進の練習をなくした学校があるそうです。他にも例えば、運動会の練習



今日こんなことがあったんです

ちょっと相談なのですが

を減らして、ぶっつけ本番でできるものにする、修学旅行の日数を減らす、林間学校をとりやめるなども考えられるかもしれません。

今、日本の多くの企業の入社式が、学校の入学式や卒業式

業式のような形式をとっていると思います。それもオリンピックの開会式のようになれば、学校も変わるのかもしれないと思います。

常識を変えることに最後まで抗うのは実は教員かもしれない



いかもありません。

仲間を見つけるのにSNSは一つ大きな力になると感じます。「同級生が教員になって苦しんでいる。多忙な教員を助けたい」という考えを自分の中だけに取めずにSNSを通して発信してみたら、予想以上に大きな反響がありました。全国に仲間がいるのだと分かり、とてもワクワクしました。

一方で、新任教員が「学校のルールに慣れなければ」と先輩方の立ち振る舞いを真似る中で、結果として旧来の常識が再生産されてしまうということも起こっています。

最近、教育実習生や新任教員を見ていて感じるのは、みんな意見を戦わせるような喧嘩をしたことがないのかもしれないということ。あなたの考えは間違っている」「何が間違っている?」という対話の中で、お互いの意見を聞き合いながら、高め合ったり、接合点を探したりする。そういう活動は、仕事ではなく理想を語り合う段階、つまり学生だからこそできるのだと思います。だからこそ、大学生のうちに教育論や人生観をぶつけ合って、いろんな価値観を取り入れてもらいたい

い、と実習生を担当する度に話そうにしています。

——そうした議論をとことんするためにも、まずはやはり自分の考えを発信することは大事ですね。

僕もツイッターで発信して多くの仲間がいますが、一方で限界も感じています。いま一番大事にしていることはできるだけ直接人と会うことです。月に数回はさまざまなイベントや会合の場に足を運んで、リアルなつながりを作ろうと心がけています。こうしたことが確実に世の中を変えていくと思っています。

趣味も大事にしてもいいです。趣味を通じ、様々な職種の仲間と出会うことで、他の業界の労働環境も見え、自分の仕事を客観視できます。海外に行くことでも、日本の教育が違った視点で見えてくるでしょう。視野を狭めず、自分の世界をどんどん広げていってもらいたいです。

教員も多様であるべきです。今の教育改革の流れの中で、教員ももっと自由に様々な挑戦をして、トライアンドエラーを繰り返せばよいのではないのでしょうか。「正解」はないのですから。今回、座談会に参加して、教員以外の人もつながり

れません。例えば、校則で黒髪を強制するのはおかしいのではないかと、と問うと「就職する時に困るから」という話が教員から出ます。僕は初任校が定時制高校で、金髪も銀髪も、ピアスをつけている生徒もいました。でも、3年生になって就職試験を受ける時には、染めていた髪を黒に戻すなど、生徒もちゃんと変わるんです。

教育大に入学すると、定められたカリキュラムに従って単位を取得していれば、教員免許が取れます。そのまま学校現場に出ると、これまでの常識に染まりやすい気がします。だからこそ、学生のうちから自分で情報を得て、考えることが大事だと思っています。学校の中から変えるのが難しいことは、これから教員になる学生や社会の視点によって変えていけば良いのではないのでしょうか。

その通りだと思います。いわゆる「ブラック校則」も学校の外からの呼びかけによって変わり始めています。私の勤務する地域では、市民団体が県内の高校の校則を分析して発表しました。その後、職員会議で「市民団体の動きを受けて、今年度は校則を全県で見直すことにした」と校長から話があったのです。

多様な価値観をぶつけ合える仲間を

実は、学生の時から頑張っていた勉強して多様な価値観を養ってきた教員が、学校現場の旧来の常識の中で押しつぶされてしまっている例は少なくありません。特に最近はそうした相談がとも増えています。そんな時、一緒に動いてくれる先輩や同僚がいて、共に考えたり、戦ったりできる環境が、特に若手教員には必要だと思っています。一人で抱え込まない、孤立しないことがとても大事です。

学校現場で仲間をどう作り、つながるかについて、何かアドバイスはありますか？

職場の中で話してみると、自分以外にも疑問を持っている人は案外いるものです。そういう人と話すことはできると思います。ただ、今は教員の年齢構成の問題もあり、自治体によっては、勤務校に若い教員がおらず、気持ちをさらけ出せる相談相手が見つからないこともあります。その場合は様々な方法で学校外に仲間を見つけてください。趣味の集まりに顔を出したり、組合に入って他の学校の教員と交流したりするのも良

世界を見て回って授業に生かすぞ



を保って、多様な人生観に触れることが大事だと思いました。4月から小学校に赴任しますが、働き始めた後も、学校の中だけでなく、外の世界にも目を向けながら頑張っていきたいと思っています。